さよなら快楽

通りすがりの鬼畜

この作品はR18描写を含むため、18歳未満の方は閲覧禁止です。

HinaProject Inc.

注意事項

【作品タイトル】
　さよなら快楽

【Ｎコード】
　Ｎ６９６２ＩＡ

【作者名】
　通りすがりの鬼畜

【あらすじ】
自分のおかずようです。気が向いたら続き描きます。

（前書き）

オナニーを覚えた恋する女子中学生の悲劇

不運にも自慰行為を母親に見られてしまい、その日の夜母親によって、寝ている間に机の上に、仰向けの状態で身体を縛られる。

目を覚ました千結は自分の性器に冷たい刃が当たられている事に気がつき……

「お願い、ママ……やめて」

千結は今から行われる残虐極まりない行為に怯えていた。

女性が身体の中で1番快感を得ることの出来る器官の切除。いわゆる割礼である。

千結は1歩間違えばクリトリスが切り落とされてしまうかもしれない絶望的状況で、必死に許しを乞う。

それはまるで死刑台に立たされた死刑囚が執行人に「死にたくない」と懇願する様と同様であった。

しかしその願いは聞き入れられることは無い。

千結の母は合図も無しに、皮を剥いたクリトリスの上から剃刀を引いた。

「いッ!?!」

余りの衝撃に叫び声は出ず、一瞬自身の声とは思えないような小さい悲鳴が喉から漏れだした。

そして縛られて動かないはずの体が脈を打つかのように跳ね上がる。

だが悲劇はまだ始まったばかりだった。

千結のクリトリスは切れておらずほんの少し切り傷が入っただけだったのだ。

「痛い!痛い!痛い!?」

意識と痛覚がはっきりしてきた時、千結は可能な限りの叫びを上げた。

「もうやめて！ごめんなさい！次はちゃんと1番になるから！もう二度と自慰行為も無駄な遊びもしませんから！お願いします……もう……もうやめてくだ　さい」

痛覚から自身のクリトリスがまだ繋がっていると分かると、千結はしゃくりあげながらは必死に許しを乞こうた。

しかし母は一切聞く耳を持たなかった。

そして1度引いた刃を再度押し当て、今度は確実にクリトリスを切り落とすため、ノコギリで木を切るかのように刃を動かし始めた。しかし剃刀の切れ味はとても悪く1度刃を引いただけでは切れなかったのだ。そのため何度も剃刀を押しては引いてを繰り返した。

その間、千結はヨダレ、鼻水、涙で顔をぐしゃぐしゃにしながら獣のような叫び声を上げ続けていた。
汗は滝のように噴き出し、剃刀を引かれる度に腰が中に浮く。そして切り離されていくクリトリスからは、血がじわじわと溢れ出していた。
後少しで切り落とせる所まで来ると剃刀を動かすのを止めた。

「これでもう二度とオナニーしなくて済むわね」
　母は冷たく言うと皮が少しだけ繋がったクリトリスを力いっぱい掴んだ。

「い゛や゛た゛ぁ゛ぁ゛ぁ゛ぁ゛ぁ゛ぁ゛ぁ゛ぁ゛」
千結は、クリトリスを切られている間、叫び続けてガラガラになった喉で必死に叫んだ。

しかしその叫びが母の心に響くことはなかった。

そして掴んだクリトリスを一気に引きちぎった。

その瞬間千結は、激痛と、もう二度と戻ることの無いものを失った絶望感で、泡を吹きながら意識を失った。

（後書き）

続く……かも？